

リゾレックス水和剤による リンゴ紫紋羽病の省力的治療法

研究のねらい

これまでの治療法は、発病樹の根を掘り出して薬剤消毒する方法（露出かん注法）であり、多大な労力を必要とした。そこで、省力化を図るため、地表面から薬液を注入して治療する方法を開発する。

研究の成果

トルクロホスメチル水和剤（リゾレックス）1000倍液を、1㎡当たり約40リットル、深さ約30cm、間隔約15cmで、スピードスプレーヤーに連結した注入器で地表から高圧注入することにより、軽症樹では回復する。

薬量は、わい性台樹では1樹あたり50～150リットル、普通台樹では200～500リットルであり、樹の大きさに応じて変える。処理は5月～11月とし、着果樹では収穫の60日前までに行う。治療後は完治するまで着果量を控える。



発病樹根域への薬液注入



紫紋羽病の被害根（黒変部）



紫紋羽病菌の菌糸塊（菌核）



紫紋羽病菌の菌糸束（土中105cm）

発表資料

病虫部（1995）. トルクロホスメチル水和剤（リゾレックス水和剤）の土壌注入によるリンゴ紫紋羽病の治療. 平成7年度指導奨励事項・指導参考資料：26-27.